

リレーメッセージ

自然保護レンジャー
 中上正晴(飯田市)



ササユリ (写真:中島道彦氏)

私は、飯田市伊賀良、笠松山の麓で生活している者です。自宅近くの里山には以前、四季を通じて自生している草花が見られる、知る人ぞ知る「山野草の宝庫」でした。私の子供が小学生の頃、二十年程前になりましたが、その里山にカタクリの花で首飾りなどを作っていました。今になって思えば、「娘の秘密の花園」だったのでしょうか。ところが、今ではサギ草、チョンバ(翁草)、菖蒲、梅針草など自生のもは全

く見当たりません。原因や理由は色々あると思います。スコップ持参でカタクリを掘りに来る人。座禅草を一輪車に一杯も持ち帰る人。毎年ササユリの開花直前になると、「お店に飾る」と探りに来る飲食店の人。「採らないで！掘らないで！」と呼びかけても、「お前の山か？作っているのか？」と怒るお父さん。花の写真を撮るのに夢中になり、周りの子苗を踏み荒らすアマチュアカメラマン等々。

里山に散見されるこれらのことが、山野草を減らせてしまった大きな原因になっていると思われまます。人災以外の何ものでもありません。平成十二年の春、そんな現状を傍観してられないで、「何とかしよう！」と地元有志数名でカタクリ、ササユリなどの山野草の保護を目的とした「自然愛護会」を立ち上げ、群生地の下草刈り、見学路の整備、案内板の設置などの保護活動を続けています。

今年四月には第一回

のカタクリ祭りを開催し、多くの来訪者に楽しんでいただくことができました。衆人環視の立場から見守っていききたいものです。

レポート「地球温暖化防止セミナー」



六月には、山本地区でササユリの大量盗掘が大きな問題となりました。

「長野県版レッドデータブック」に記載されている指定希少野生動物植物です。

飯田・下伊那の各地に咲くササユリを「地域ブランド」として、大切に守り育てていきたいと考えております。

管内の地球温暖化防止活動推進員を対象に、NPO法人「いいだ自然エネルギーネット山法師」が自ら建設した化石燃料ゼロハウス「風の学舎」を会場に、「かまど」などの化石燃料を使わない実践体験と講義を通じて、具体的な温暖化防止の実

地球温暖化防止講演会の開催について

- 日時 平成二十年 二月三日(日) 午後二時～三時三十分
- 場所 高森町福祉センター 二階 大ホール (高森町役場隣り)
- 演題 「伊那谷の気象と地球温暖化が及ぼす当地域への影響」

編集後記

県条例で指定する希少野生植物のヤシヤイノデとササユリが相次いで盗掘された悲しい記事を一面に載せることになってしまいました。環境保全を阻害している心無い者の存在は、悲しい現実であり、大きな課題です。当通信で明るい話題や夢が語られるようにならなければ、環境関係者が流した汗と涙は報われることはありません。次号の紙面は、明るい記事で埋めたいものです。

ヤシヤイノデ大量盗掘被害

長野県希少野生動物植物保護条例 特別指定種

十月十五日、飯田市上村地区に自生するヤシヤイノデが大量に盗掘されていることが確認された。ヤシヤイノデは、常緑のシダ植物で、環境省と長野県のレッドデータブックで、「絶滅危惧ⅠA類」(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)に分類され、長野県希少野生動物植物保護条例でも「特別指定種」に指定されている希少な種である。



盗掘前 2006.9.12

盗掘状況写真提供 長野県環境保全研究所



盗掘後 2007.10.25

ヤシヤイノデは、全国的にも、県内の飯田市、県外では神奈川、山梨、長野の一部にしか生育していない。近年では、ニホンジカによる食害や河床の上昇により、その数も激減している。長野県では、このヤシヤイノデを平成十六年度に条例で「特別指定種」に指定し、昨年度、「保護回復事業計画」を策定して、保護回復を図ることとしている。

盗掘は、伊那谷自然友の会の堤久さんが、保護活動に取り組みため、ヤシヤイノデの観察会を実施しようと群生地の下見に訪れたところ、それまで数十株あったヤシヤイノデが根こそぎ無くなっていくのを発見した。この事件を受け、県生

環境部自然保護課では、現地調査を実施した上で、十一月十四日、保護団体や関係機関による「ヤシヤイノデ保護打合せ会議」を開催した。



南アルプス三伏峠植生復元活動

ニホンジカの食害から高山植物を守ろう

九月二十二日〜二十四日、静岡県の南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークが主催する「南アルプス三伏峠植生復元活動」に対し、下伊那地方事務所では、長野県側のボランティアを募集しました。このボランティア活動に参加したお二人の方に活動の様子や感想を寄せていただきました。



環境ウオッチャー

菅沼浩一（飯田市）

もう十年以上も前のことですが、新春の遠山川に子供と一緒に溪流釣りに行くと、道の近くに小鹿が出ていました。小鹿たちとの出会いは初めて

の経験で、感動したものでした。それが昨年夏の早朝、三伏峠を目指して大鹿村の鳥倉林道夕立神近くを通りかかるとヘッドライトの中に浮かんだのはキラキラ光る何十もの鹿の瞳でした。こんなに沢山の鹿がいたなんて、不気味な体験でした。

数年前、初めて三伏峠に登り、高山植物のお花畑に出会い、その可憐さと植相の豊かさに感動して、写真を何枚も撮りました。それが昨年、網を張って保護されたお花畑は、

その網も破られて、楽しみにしていた高山植物は、花の影もありませんでした。そこで今年は金網を張って保護しようとなつたのです。九月の下旬、静岡、長野の両県からボランティア参加者が何十人も集まってきました。

秋晴れの下、背後にそびえる「烏帽子岳」を望みながら手分けして作業を進めていきました。さあ、シェルターの出来上がりですが、次の世代に貴重なお花畑を残せるでしょうか。

翌日は、作業班とパトリール班に分かれて山頂までの美化清掃、植生調査です。静岡の方は「塩見岳」を目指した人が多かったようです。我々は「小河内岳」を目指しました。避難小屋はもう無人で、この時期あまり訪れる人がいないのかもしれないです。「日本で最も



美しい村」の一つ、大鹿村はジビエ（狩猟によって得た食肉）料理が盛んになってきました。この時期、油がのつて一番美味しいそうです。私にも出来ることは協力します。「いただきます！」

自然保護レンジャー 村上和彦（下條村）

初日は、午前六時に鳥倉林道ゲート前に集合し、三伏峠に向かった。峠に九時に到着した後、担当者から説明を受け、防鹿柵を設置する作業現場へ移動した。

お花畑の最上部を頂点として、周囲百五十メートルの防鹿柵を設置するため、参加者全員で、杭打ち、金網張りを行いました。二日目、塩見岳清掃班は、午前四時に朝食をとって山小屋を出発した。

作業班は、昨日の残りをロープと金網でつなげる作業をしてから、三伏沢に下りて清掃作業を行った。午後は山頂班も加わり、ゴミの回収に汗を流した。

人間も自然の一員として存在し、自然に対して生きることをお願いしているにもかかわらず、人間はすべての頂点に存在し、自然のすべてを支配しようとしている行動が目立つ。

私は、鳥獣保護員や猟友会の役員をしているが、鹿の気持ちも理解してやりたいと思う。

金網の柵を作りながら「鹿がかわいそうだ！」「この冬を越せるだろうか？」と切に感じた。鹿がこれだけ増加して

三伏沢に集められたゴミ



しまったのも、人間がやったことであり、本来なら、自然は自然のままが一番良い。過去のつけによって、高山植物が深刻な被害を受け、防鹿柵を設置しなければならなくなった。人間は、できるだけ自然を支配しないことだと私は思う。

長野県では、十一月二十一日に、副知事を本部長とする「野生鳥獣被害対策本部」を設置し、関係部局の野生鳥獣被害対策に関する情報の収集・共有を図り、今までより一歩進んだ総合的・効果的な対策を推進していくこととしました。

一向に止まらない不法投棄

不法投棄監視連絡員 佐々木且朋（高森町）

不法投棄監視連絡員の仕事を昨年度からさせていただき、月四回、不定期に高森町内のパトロールを行っています。

その活動の中で、毎月必ず目にするのは、人家の途絶えた道ばたの草むらや、山の中の人目につきにくい崖下、河川敷地などに捨てられている家庭ゴミやコンビニの袋に入った弁当の空き容器、空きカン、ペットボトルなどです。

こうした現状は、ほんの一部の心ない人達の仕業だと思のですが、心が痛むのは私だけでしょうか。モラルの低下というのでしょうか。自分さえ良ければという安易な気持ちで捨てて行くのではないかと思えます。不法に捨てていく後ろめたさはないのでしょうか。家に持ち帰り、決められたルールにより分別し、集積所へ出すという当たり前のことが何故できないのでしょうか。



一人ひとりがその気になれば、わずかな時間で簡単にできることです。一面倒くさい、そのうちに誰かが片付けてくれるだろうと思っているのでしょうか。怒りが込み上げてきます。

この地に住む全ての人々のために、環境の保全のためには、状況です。努力があるからこそ、町内はどうにかきれいに保たれているというのが現状です。

南アルプスの植物のにぎわいを取り戻すのは今

希少野生動物植物保護監視員 北澤あき子（飯田市）

私の南アルプス行きはそう多くはありませんが、十数年前の夏、鳥倉林道から三伏峠の丈の低い植物の色の濃い花の美しさが、いつまでも心に残っています。

最近、シカの食害を受けたヤシヤイノデの群生地を訪れ、個体調査等の保護活動の機会をいただきました。そこはコケが生えた急斜面で、葉長十センチ足らずのヤシヤイノデが所々にあるだけで、胞子が付いているものは全くなき、本来成長すると葉長が八十センチにもなると言われるまでに伸びた物は、一株もありませんでした。

私の手元には、一九八〇年代のこの付近のヤシヤイノデばかりでなく、他の草もにぎわう貴重な写真があります。当時の

が自然を大切にす美しい心と、不法投棄は絶対にしてはいけない、許さない強い精神を持つことです。強い協力を切にお願いしたいと思います。

植物のにぎわいを取り戻したい思いを募らせています。

今、南アルプス全体がシカを始めとした獣の食害で生態系、植物種多様性が脅かされ、復元できないのは今しかないと思われま

す。長野県にはシカの捕獲



を進めていただくと共に防鹿柵（ネット）の設置などの植物の回復・保護に早急に取り組んでいただきますようお願いしたいと思います。

私は今までハナノキ等を中心に保護監視活動を行ってきましたが、これからは、絶滅の危険性が高いヤシヤイノデにも関わっていくつもりでいます。

わが村の地球温暖化防止活動

地球温暖化防止活動推進員 中島保吉（泰阜村）

泰阜村での地球温暖化防止活動は、まだ低調ですが、平成二十二年

その量も当初は年間五トンであったものが、昨年には倍近くになってきております。山間地で、公共交通機関が整備されていないため、自家用車から排出される二酸化炭素を減少させることは難しいことですが、家庭から出される廃棄物をリサイ

クルに回すことなど、身近なことから地球環境の保全に協力していけたらと思います。泰阜は自然に恵まれ、四季の豊かさを満喫できます。しかし、近年は季節感が薄れてきているなど、徐々に温暖化の影響を感じられるような現象がでてきております。小さなことでも全村民で取り組めば大きな力となり、村の環境や豊かな自然を守るができます。地球温暖化防止に取り組んでいただけの方や、関心を持っていただける方を増やして行くことが、ストップ温暖化への近道だと思っております。

泰阜村のリサイクル量の推移

